



ブルネイ・ダルサラーム大学

Universiti Brunei Darussalam



●学部学生 約3,000人 ●大学院生 約770人 ●教員 約470人 ●留学生 約370人

ホームページ <http://www.ubd.edu.bn/>

交流協定締結年月日：2009年11月8日 主管学部：医学部



国際交流の特色

ブルネイ・ダルサラーム大学（UBD）は、1985年に設立された総合大学である。学位取得コースは、国民及び外国人に開かれていて、政府による奨学金制度（教科書や交通機関及び宿泊費）が、ブルネイ国民に授与されている。1989年に最初の卒業生を送り出し、現在のツング・リンクのキャンパスは、1995年9月に正式にオープンした。医学部では英語での、Problem Based Learning（PBL）を主体としたチュートリアル中心の基礎教育を3年間行い、その後3-4年は英国、カナダ、オーストラリアの各大学医学部に編入し、臨床教育を受けて医師免許を取得する。2009年には大学間協定が結ばれ、さらに医学部とブルネイ国保健省との国際協力協定が結ばれた。特に医学部では、本学医学部との双方向性の学生交流が積極的に行われ、実績が積まれている。

交流実績（平成30年度～令和2年度）

年度	H30	H31	R2
受入・派遣			
学生の受入	20	20	0
学生の派遣	7	12	0
研究者・職員の受入	2	2	0
研究者・職員の派遣	8	3	0
オンライン交流参加者（本学）			16
オンライン交流参加者（相手機関）			18



教員からの声

ブルネイ国はアジアでも最も英語能力が優れ、治安が良く、政治的、経済的にも安定したイスラム教王国です。UBD医学部では英国式医学教育としてProblem-Based Learningを実施しており、国際的な視野を持った医師の教育で顕著な効果を挙げています。2006年から医学部間で協定を結び、さらに全学協定に発展しました。UBDにおける夏季医学教育コース（5-6週間）や課題実習（4-5週間）、香川大学における冬季医学セミナー（3週間）やディスカバリーイヤープログラム（14週間）、さぬきプログラム等を介した相互派遣等、さらに交流を深め、将来アジアで活躍するリーダーの育成にとともに取り組んでいます。令和2年3月以降はコロナ禍で人的な相互交流は停滞せざるを得なくなりましたが、生活習慣病に関するグローバルクラスルームの開講や、各種のオンライン学会で共同研究成果を発表する等、遠隔での交流が深まっています。

医学部国際交流委員会委員長・教授 和田健司

学生からの声

私は3年次に1ヶ月間UBDで薬理学の教授であるDr. Shebaの下、大腸がん治療の研究に参加しました。研究室では主にAnona muricataという植物の抽出物の効果を調べる実験について学んだり、抄読会で発表をしたりしました。研究室での実習の他、模擬患者を導入した体験型講義も見学させて頂き、如何にUBDの学生が臨床を意識して日々勉強に励んでいるのかを知りました。

UBDの学生は皆英語が堪能ですが、第二言語ということもあるからか、私が英語でなかなか言いたいことが伝えられない時も、優しく言葉を促しながら話を聞いてくれたのが印象に残っています。初めて留学をする人ものびのびと学ぶことができる環境だと思います。

医学科5年 宮川友結